

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 法文学部、人文社会科学研究科	3
2. 教育学部、教育学研究科	5
3. 理学部、工学部、理工学研究科	7
4. 農学部、水産学部、農林水産学研究科	9
5. 医学部	11
6. 歯学部	13
7. 共同獣医学部、共同獣医学研究科	15
8. 保健学研究科	17
9. 医歯学総合研究科	19
10. 臨床心理学研究科	21
11. 連合農学研究科	23

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
法文学部、人文社会科学 学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部、教育学研究 科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理学部、工学部、理工 学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
農学部、水産学部、農 林水産学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
歯学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
共同獣医学部、共同獣 医学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
保健学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医歯学総合研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
臨床心理学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
連合農学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 法文学部、人文社会科学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4 )

**分析項目Ⅰ 研究活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績が、4件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 2. 教育学部、教育学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 6 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 令和元年度5月1日現在の本務教員数は83名であり、内訳は、教授27名、准教授46名、講師10名であり、年齢構成は、35歳未満が5名、35歳から44歳28名、45歳から54歳30名、55歳から64歳20名である。退職後の後任補充の結果、全体の約40%が44歳以下であり、全体的に若い年齢構成となっている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



### 3. 理学部、工学部、理工学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 8 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 8 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域コトづくりセンターは、研究、開発、教育の3部門で構成されている。研究部門には「地域創生・安全工学」「環境エネルギー」「医療・福祉工学」「先進物質材料開発」「天文学宇宙」の5つの分野が設置されており、理工学研究科の強みと特徴を活かした研究支援活動を進めている。開発部門には研究成果を製品等にするなどの実用化のための支援体制が、教育部門にはものづくりに関する先端技術の修得支援体制が整えられており、これらを活かした産学官連携の技術開発支援等の活動を進めている。さらに、研究型インターンシップのコーディネートなどを通じたイノベーション人材育成活動にも力を注いでいる。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

#### 4. 農学部、水産学部、農林水産学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 10 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 10 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 水産学部では、日本全国の水難事故（海浜事故）が発生した海岸を対象に離岸流の現地調査を継続的に行い、多数の人命が失われている危険な海域でのリスクの高い科学的な現地調査に基づいた研究成果の発信、教育関係者を含む一般市民及び救難関係者向けの実体験に基づく全国的な啓発教育並びに新聞やテレビを含む各種報道機関を通しての広報活動に対し、内閣総理大臣賞並びに海上保安庁長官賞を受賞している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 5. 医学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 12 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 12 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年 3 月まで医歯学総合研究科に属していた鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターが統合して平成 31 年 4 月に「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」が設置された。同センターは限られた人的・物的資源を最適化し、先端的研究と若手研究者の育成を目標としている。
- 平成 30 年 4 月 1 日に難治性がんへの遺伝子ウイルス治療開発などの成果を実用化し地域貢献を推進するため、医歯学総合研究科に「南九州先端医療開発センター」を設置した。
- 医学部保健学科は、平成 29 年 4 月から、高齢化が顕著に進展した地方都市の一つである鹿児島県垂水市が進めている「たるみず元気プロジェクト」に医歯学総合研究科と共同で参画し、「地域高齢者のフレイルと関連する要因についての研究」を実施している。
- 鹿児島県、県内自治体と共同で HTLV-1 キャリア妊婦を対象とした大規模なコホート研究、「HTLV-1 母子感染予防対策研究」を実施している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、3 報、1 報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 6. 歯学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 14 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 14 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 歯学部研究体制委員会では、平成 28 年度より歯学系 URA として機能することを明確な方針として、外部研究費獲得の推進のために研究費申請の際の申請調書の作成指導及び介入を実施した。学内外の研究者を共同研究者として参加させることでより学際的なプロジェクトの立案を提案している。
- 招請講演、特別講演、シンポジウムなど特記すべき発表は国際学会では平成 28 年度 39 回、平成 29 年度 27 回、平成 30 年度 49 回、令和元年度 30 回、計 145 回、国内学会では平成 28 年度 233 回、平成 29 年度 251 回、平成 30 年度 238 回、令和元年度 215 回、計 937 回であった。
- 西之表市と鹿児島大学歯学系教員で共同研究契約を締結し、令和元年 6 月より「種子島スタディ ―種子島地域在住高齢者の健康寿命延伸につなげる高齢者総合的機能評価―」を実施している。地域在住高齢者の総合的機能評価を行い、包括的な改善プログラムの開発に繋がるデータ収集を行っている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、1 報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



## 7. 共同獣医学部、共同獣医学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 16 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 16 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 評価対象教員が平成31年3月現在40名であるので、一人あたりの年平均掲載論文数は7.35と高い水準にある。

〔特色ある点〕

- 第3期中期目標期間では、部局間学術交流協定は、インドネシア共和国のアイランガ大学獣医学部（平成30年3月1日）、ドイツ連邦共和国のベルリン自由大学獣医学部（平成30年7月6日）、タイ王国のタイグエン農林大学動物科学・医学部（平成30年10月3日）、ポルトガル共和国のトラスモンテスアルトデュオ大学獣医学部（平成31年2月13日）と締結している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、3件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 8. 保健学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 18 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 18 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 超高齢社会の我が国において、「住み慣れた地域で最期までその人らしく生活できる」ことは喫緊の課題となっている。また、保健学研究科のミッションは「離島・へき地を含めた地域医療の発展に寄与できる人材を育成すること」「島嶼看護についての教育研究や地域貢献を推進するとともに、超高齢社会を支える地域包括ケアシステムの構築、ケア提供者全体の質の向上への取組を進め、今後の日本の社会的・地域的課題への対応に貢献すること」である。このような要請に対処できる、在宅看護の専門職者の育成を従来の講義に加えて離島・へき地をフィールドとした実習を通して育成する「島嶼・地域看護学コース」を令和元年度に保健学研究科に開設し、現在2名入学し研究をし始めている。なお、コースは、文科省の課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業（平成26～30年度）「地域での暮らしを最期まで支える人材養成～離島・へき地をフィールドとした教育プログラム～」を発展させた教育プログラムである。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 9. 医歯学総合研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 20 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 20 )

**分析項目Ⅰ 研究活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、4報、1報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 10. 臨床心理学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 22 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 22 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域支援プロジェクトとして、平成 28 年度の地域支援活動実績としては、鹿児島市、霧島市、枕崎市、伊佐市などの市町村と連携し、計 11 回、参加者 450 名、さらに平成 29 年度は日置市などを含む 4 市で計 12 回、参加者 301 名を対象として、地域のニーズに沿った研修会や相談会、学習会を開催した。平成 30 年度は、島嶼地域との連携をスタートし、奄美市で介護職・福祉職、地域住民を対象とした講演会や相談会を実施し、5 市で 10 回、参加者 1,131 名に上る活動を展開した。
- 平成 28 年度から平成 30 年度まで 7 件の国際的な視点から地域支援について情報収集しマレーシア・マレーシア国立大学、フランス・パリ第 5 大学心理学部、オーストラリア・タスマニア大学から講師を招聘し研究科で講演会を開催した。またフランスから認知症ケアの支援に関する専門家を招聘し、鹿児島市で介護専門職向けのワークショップを開催した。これらの活動は、平成 29 年に地域支援プロジェクト報告書として外部にも発信し、さらに臨床実践研究や科  
研費研究、基盤研究 (C) 「介護専門職の包括的ストレスマネジメント教育プログラムの開発」テーマと連動し、国際的な研究交流に発展している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



## 11. 連合農学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 24 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 24 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 食品の生活習慣病予防機能及び作用機構の解明の研究では、ケルセチンやアントシアニン等の食材ポリフェノールの生活習慣病予防機能を解析し、作用機構を遺伝子・タンパク質・腸内細菌叢まで明らかにした。これらの成果で企業と共同開発した「黒膳弁当」が商品化された。この弁当は、「全国お弁当・お惣菜大賞 2019」で優秀賞（全国2位）を受賞した。

〔特色ある点〕

- 連合農学研究科設立 30 周年記念シンポジウムを平成 30 年 11 月 30 日に開催し、将来の国際共同研究を加速させるために、連合農学研究科で学位を取得し母国等で活躍する「留学生ネットワーク交流会」に関する懇談会を連合農学研究科会議室で実施した。連合農学研究科代議委員、当時の指導教員等と連合農学研究科で学位を取得して母国で活躍する同窓生 4 名、総計 19 名で、意見交換を行った。今後、将来の国際共同研究を加速させるために、RENDAI Alumni Network International Symposium を隔年で開催する計画を立て、連合農学研究科の研究及び教育の国際化の推進に寄与することとした。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、6 件、4 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。